第４課　一致の鍵

【暗唱聖句】

「秘められた計画をわたしたちに知らせてくださいました。これは、前もってキリストにおいてお決めになった神の御心によるものです。こうして、時が満ちるに及んで、救いの業が完成され、あらゆるものが、頭であるキリストのもとに一つにまとめられます。天にあるものも地にあるものもキリストのもとに一つにまとめられるのです」エフェソ1：9，10

【今週のテーマ】

教会における兄弟姉妹同志の一致も、天と地における神と人との宇宙規模の一致も、その源はイエス様にあることを学びます。

【日曜日・キリストにおける祝福】

「天地創造の前に、神はわたしたちを愛して、御自分の前で聖なる者、汚れのない者にしようと、キリストにおいてお選びになりました。イエス・キリストによって神の子にしようと、御心のままに前もってお定めになったのです」エフェソ1：4，5

聖書に中には、私たちと神様との関係を様々なたとえで教えていますが、その中の一つが養子縁組のたとえです。

養子というのは、それよりも前には子としての権利を一切持っていなかったにもかかわらず新しい家族の一員となり、子供としての全ての権利を付与されることを意味しています。この今日における養子縁組の際に起こることが、神様との霊的な関係において起こるというわけです。つまり弱く罪に汚れた人間が、清い神様の子供になり神の家族となるということです。ある牧師は、「神様による我々のための養子縁組は、贖いの祝福の頂点である」と言っています。さらにそれは天地創造の前から神様がその愛のゆえに私たちを選んでくださっていたと書かれていることも、私たちを驚かせます。そして、キリストによって神様の家族となったという事実が、わたしたちの一致の基礎となります。

　ところで「前もって定められていた」と表現されていることは、私たちにとって大きな喜びなのですが、同時に困惑する人もいることでしょう。それはわたしたちが前もって選ばれていたということは、逆に選ばれなかった、つまり滅びるように定められた人たちもいるということを意味しているように感じるからです。しかし、そのように考える必要はありません。ヨハネ3：16にあるように、神様は一人も滅びないことを願って御子を十字架に渡されたのですから、むしろすべての人を神様の子供としてお選びになったと考えるほうが筋が通ります。

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである』」ヨハネ3：16

すべての人を神様の子供にしたいと、神様はお考えになりました。しかし、その神様からの養子縁組の申し出を拒むこともできます。滅びていく人たちというのは、つまり神様からの救いの御手を自ら放棄してしまうからに他ならないのです。

【月曜日・壁を取り壊す】

人々の間に仲たがいが起こる大きな原因の一つに、人種や民族、宗教の違いがあります。これは実に難しい問題なのですが、イエス様はこの大きな問題を解決してくださいました。

「実に、キリストはわたしたちの平和であります。二つのものを一つにし、御自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し、規則と戒律ずくめの律法を廃棄されました。こうしてキリストは、双方を御自分において一人の新しい人に造り上げて平和を実現し、十字架を通して、両者を一つの体として神と和解させ、十字架によって敵意を滅ぼされました」エフェソ2：14～16

1. イエス様はわたしたちの平和です。
2. イエス様は2つのものを1つにされます。
3. イエス様は敵意という隔ての壁を取り壊されました。
4. イエス様は人々を隔てる規則や戒律を廃棄されました。

＊エルサレムの神殿には、ユダヤ人だけが入ることができる場所を区別するために隔ての壁があった。

　パウロは宣教旅行の後、エフェソ人のトロフィモを神殿の中に入れたのではないかと非難されました。

1. イエス様は双方を1人の新しい人に作り上げて平和を実現されました。
2. イエス様は両者を1つの体として神様と和解させてくださいました。

イエス様がどのようにこれを実現されたかというと、それは十字架の血によってだと言います。

「しかしあなたがたは、以前は遠く離れていたが、今や、キリスト・イエスにおいて、キリストの血によって近い者となったのです」エフェソ2：13

「十字架を通して両者を一つの体として神と和解させ、十字架によって敵意を滅ぼされました」エフェソ2：16

実際に十字架の血によって私たちの中に何が起こったのか、これを言葉で説明することは難しいです。しかし、何か素晴らしいことが起こって、敵意が消えて、平和が訪れ、新しい人とされていくのです。「あなたがたはキリストにおいて、手によらない割礼、つまり肉の体を脱ぎ捨てるキリストの割礼を受け」（コロサイ2：11）たとあるように、イエス様によって人種や民族など血肉の違いを超えた変化がもたらされたのです。

【火曜日・一つの体における一致】

「そこで、主に結ばれて囚人となっているわたしはあなたがたに勧めます。神から招かれたのですから、その招きにふさわしく歩み、一切高ぶることなく、柔和で、寛容の心を持ちなさい。愛をもって互いに忍耐し、平和のきずなで結ばれて、霊による一致を保つように努めなさい」エフェソ4：1～3

わたしたちが様々な障害や垣根を乗り越えて一致していくことは、神様が求めていることです。わたしたちは神様から招かれたのだからそれにふさわしく歩むこと、すなわち高ぶることなく柔和で寛容、愛を持って互いに忍耐し、平和のきずなで結ばれて、霊による一致を保つように努めることは、主からのご命令です。

　高ぶることなく謙虚に生きるということは、当時に世界においては美徳して考えられてはおらず、そもそもギリシャ語には謙虚という言葉すらありませんでした。その意味で聖書の教えは、これまでとはまったく違った価値観や生き方が要求されたのでした。神様の愛の中に生き、自分の罪深さを知り、誰もが神様から造られた存在なのだということを自覚するとき、謙遜な生き方が自然なことであることを理解するようになるのでしょう。そしてこれらはすべて愛に根差しており、霊的な導きの中で行われていくものです。

「体は一つ、霊は一つです。それは、あなたがたが、一つの希望にあずかるようにと招かれているのと同じです。主は一人、信仰は一つ、洗礼は一つ、すべてのものの父である神は唯一であって、すべてのものの上にあり、すべてのものを通して働き、すべてのものの内におられます」エフェソ4：4～6

ここに一致の基礎となる基盤についてのべられています。それはすべてが1つのものから始まっているということです。

1. 体は一つ…まず体として象徴されている教会は、キリストをかしらとして一つです。教会員は二つの異なる体に属しているのではありません。もしばらばらに動けば、体は傷つき壊れてしまうでしょう。
2. 霊は一つ…わたしたちは同じ聖霊を内に持っています。その聖霊が互いをひきつけあい、思いを一致させていくのです。同じ霊を内に持ちながら、ばらばらということはありえないのです。もし聖霊を内に持たないとしたら、それはキリスト者としての命を持たないことを意味し、そのような教会は光を失うことでしょう。
3. 希望は一つ…神様の子供たちが持っている希望は一つ、同じものです。同じ希望に向かって生きているのです。だから思いを一つにすることができるのです。
4. 主は一つ（1人）…私たちが仕え、従う主は同じです。同じ主がばらばらのことをご命令するでしょうか。
5. 信仰は一つ…私たちは同じ神様を信じています。信仰の強い、弱いはあるでしょう。しかし心を向け、信じ

るお方は同じなのです。

1. 洗礼は一つ…教会員はみな同じ主の名によってバプテスマを受け、古き人に死に新しい人に生まれ変わりました。色々なバプテスマがあるわけではなく、それはただ一つなのです。
2. 父なる神様は一つ…すべてのものの父なる神様は唯一であり、すべてのものの上にあり、すべてのものを通して働き、すべてのものの内におられます。

これらのことを霊的に正しく悟るならば、もはや一致できない理由はなどどこにもないのです。

【水曜日・教会の指導者と一致】

「しかしわたしたち一人一人に、キリストの賜物のはかりに従って、恵みが与えられています」エフェソ4：7

「ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を福音宣教者、ある人を牧者、教師とされたのです」エフェソ3：11

確かにすべてが一つのものを基盤としています。しかし、与えられるキリストの賜物は異なります。この点をよく理解しないと、一致を難しくさせます。皆が同じ一つの希望を持ち、同じ信仰と御霊に導かれて、一つのキリストの体を建てあげていくために生きているのですが、皆が同じ働きをするのではないということです。日本人は皆で一緒にするという考え方を好みます。そして皆と一緒にできない人に対しては協調性がないと批判してしまうことが少なくありません。しかし、大切なのは神様から与えられた賜物に従って、神様の御旨を生きているかどうかなのです。

　では、なぜ神様は人それぞれに異なる賜物を与えられるのでしょうか。その答えは明確です。それは「聖なる者たちは奉仕の業に適した者とされ、キリストの体を造り上げてゆ」（エフェソ4：12）くためです。一つの体を築き上げていくために、すなわち御心にかなった教会を作り上げ、福音を伝えていくために、誰かが腕となり、誰かが目となり、誰かが足とならなければならないということです。皆が同じであれば、一つの体を築き上げていくことはできないのです。その意味では、教会の指導者の責任は大きいでしょう。うまくかじ取りをしながら、一致をはぐくみ、促し、進めるために必要な存在なのです。またこの一致の原則を指導者自身も正しく理解していなければなりません。そうしないと正しい方向へと導き育てることができず、下手をすれば独裁ともなりかねません。

またお互いの働きを助け合い、協力しあうことで実はキリスト者として成長することも神様は期待されておられ、そのように導くのも指導者の大切な役割です。

「ついには、わたしたちは皆、神の子に対する信仰と知識において一つのものとなり、成熟した人間になり、キリストの満ちあふれる豊かさになるまで成長するのです。」エフェソ4：13

【木曜日・キリストにおける人間関係】

キリスト教とは、関係の宗教と言えます。その関係とは人と神、人と人の両方を含み、どちらか一方だけではありません。この関係を構築していくうえでも、この一致の原則は重要であり、それを通してますますキリストに向かって成長していくことができるのです。

「愛に根ざして真理を語り、あらゆる面で、頭であるキリストに向かって成長していきます。節々が補い合うことによってしっかり組み合わされ、結び合わされて、おのおのの部分は分に応じて働いて体を成長させ、自ら愛によって造り上げられてゆくのです。」エフェソ4：15～16

それぞれ与えられた賜物に応じて仕えていくとき、それぞれがキリストに向かって成長していくことができます。ここに神様の大きな目的があります。キリストの体を建てあげていくという共通の目的と、自分自身も愛によって神の子として造り上げられていくことが同時に起こるのです。パウロは「キリストに対する畏れをもって、互いに仕え合いなさい」（エフェソ5：21）と言いました。これこそ一つの体が建てあげられていくことにおいて重要なことです。そして、これは聖霊に満たされることによって可能となるのです。

「酒に酔いしれてはなりません。それは身を持ち崩すもとです。むしろ霊に満たされ（なさい」エフェソ5：18

さらにパウロは、夫婦の愛を教会の愛に例えて教えています。家庭の一致、夫婦の一致は教会の一致にも大きな影響をもたらします。

「妻たちよ、主に仕えるように、自分の夫に仕えなさい。キリストが教会の頭であり、自らその体の救い主であるように、夫は妻の頭だからです」エフェソ5：22，23

「夫たちよ、キリストが教会を愛し、教会のために御自分をお与えになったように、妻を愛しなさい」エフェソ5：25